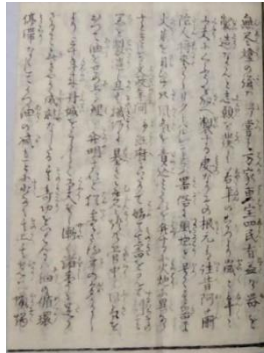


ちょうほうむじんとうようほうき

### #43 重宝無盡燈用法記

作者：田中儀右衛門（たなか・ぎえもん 1799-1881）

刊行：嘉永3年（1850）



[558. 5/3]

#### 📖 解題

#### ■ 内容

本書はからくり儀右衛門として知られる田中儀右衛門（久重）が製作した照明具「無尽灯」の使用法や手入れの方法などを詳しく記した取扱説明書・解説書である。「無尽灯」は燃え尽きる度に交換しなければならなかった蠟燭や行灯などとは異なり、自らが考案した風砲（空気銃）の原理を利用して自動的に給油される仕掛けになっていた。その明るさも蠟燭の数倍ほどあったとされる。長時間の連続点灯と蠟燭の灯の数倍もの明るさは大変好評を博した。この製品は非常に高価であったにもかかわらず、大坂、京都、滋賀などでは売れに売れ、照明器具として無尽灯を利用していない商家はないほどだったという。まさに大ヒット商品であった。

無尽灯は田中儀右衛門（久重）がからくり公演をしている頃から長年温めてきたアイデアであつたらしく、この小冊子の冒頭には、長年にわたる研究の結果生み出されたものであることが次のように記されている。

「無尽燈の儀は予嘗て万家重宝四民有益の器を製造なさんと志願を發し、若年のころより歳々年々工夫にくふうを加え製する処なり。」

本書は嘉永3年（1850）、田中儀右衛門が「近江大掾（おうみだいじょう）」の称号を得た後に発行されたもの。このころから田中近江大掾や田中久重を名乗っている。京都に住まいと工房を持って活動しており、本書裏表紙にはその取扱製品全般の宣伝記載も見られる。

## ■ 作者

著者の田中儀右衛門は、九州久留米の生まれ。幼い頃から才能を發揮し16歳ごろからは、からくり人形の新しい仕掛けを次々と考案した。これが大評判となり、「からくり儀右衛門」と呼ばれるようになる。20代に入ると九州各地や大阪・京都・江戸でも興行を行い、各地にその名を知られるようになる。現存するからくり人形として有名なものに「弓曳童子」と「文字書き人形」があり、からくり人形の最高傑作といわれている。

天保5年（1834）には上方へ上り、大坂船場の伏見町（現・大阪市中央区伏見町）に居を構えた。同年に折りたたみ式の「懐中燭台」、天保8年（1837）に圧縮空気により灯油を補給する灯明の「無尽灯」などを考案する。同年、大塩平八郎の乱で焼け出され京都へ移り住む。弘化4年（1847）には天文学を学ぶために土御門家に入門。嘉永2年（1849）には、優れた職人に与えられる「近江大掾」の称号を得る。近江大掾とは宮廷より天文家などに許される栄称で儀右衛門は時計司としてその技術が認められたものである。翌嘉永3年（1850）には、天動説を具現化した須弥山儀（しゅみせんぎ）を完成。この頃に蘭学者の廣瀬元恭が営む「時習堂」（じしゅうどう）に入門、様々な西洋の技術を学ぶ。嘉永4年（1851）には、季節によって昼夜の時刻の長さの違う不定時法に対応して文字盤の間隔が全自動で動くなど様々な仕掛けを施した「万年自鳴鐘（じめいしょう）」を完成させた。万年時計こと万年自鳴鐘（和時計）は儀右衛門絶頂期の最高傑作で現在国立科学博物館でレプリカが展示されている。その後佐賀、久留米各藩で技術・軍事面で活躍、維新後明治6年（1873）に首都東京に移る。75歳となった明治8年（1875）に東京・京橋区南金六町9番地（現在の銀座8丁目9番15号）に電信機関係の製作

所・田中製造所を設立。明治14年(1881)1月11日、82歳で死去。墓所は青山霊園。

久重の死後、田中製造所は養子の田中大吉(2代目久重)が引き継いで芝浦に移転し、株式会社芝浦製作所となる。後に東京電気株式会社と合併、東京芝浦電気株式会社となり、これが現在の東芝の基礎となった。なお田中儀右衛門は初名、のちに御用御時計司として田中近江大掾源久重または田中久重と名乗っている。

## 📖 本文を読む

<影印>

「重宝無盡燈用法記」(『ランプ』榎恵著 築地書館 1980) [545.5/11]

<翻刻>

「重宝無盡燈用法記」(『Muse 帝国データバンク史料館だより』vol.18 帝国データバンク史料館 2012) [Z332/4] ※抄録

## 📖 参考文献

『田中近江大掾』田中近江大掾著 田中近江翁顯彰會 1931 [289.1/868]

『近代技術の先駆者』今津健治著 角川書店 1964 [289.1/545]

榎恵「無盡燈」(『ランプ』榎恵著 築地書館 1980) [545.5/11]

『からくり儀右衛門』今津健治著 ダイアモンド社 1992 [289.1/3139]

『江戸・東京における無盡灯』大谷典久著 大谷典久 2003 [383.95/5]

金子務「からくり師の世界 田中久重」(『江戸人物科学史』金子務著 中央公論新社 2005) [402.1/119]

『からくり儀右衛門展』からくり儀右衛門展実行委員会編刊 2013

[夕23 289.1/1793] ※県立川崎図書館所蔵

『東芝の祖からくり儀右衛門』林洋海著 現代書館 2014[夕23 289.1/1833]

※県立川崎図書館所蔵